

## 目次

編集委員巻頭言	九島 巳樹
〈原 著〉	
甲状腺嚢胞の細胞診判定区分 ——適正か不適正か——	がん研究会有明病院臨床病理センター細胞診断部 鈴木奈緒子・他 (103)
乳管内乳頭腫および DCIS の重積を伴う細胞集塊に対する CK14/p63 カクテル抗体を用いた 二重染色の有効性	聖マリアンナ医科大学病院病理診断科 小穴 良保・他 (107)
上皮内腺癌 (AIS) 65 例の術前細胞診の検討	がん研有明病院婦人科 近藤 英司・他 (114)
〈調査報告〉	
細胞診従事者の職業性ストレス ——細胞検査士・病理技師・医師・事務職の職種間比較から——	川口市立医療センター臨床検査科 須賀恵美子・他 (119)
北陸地方における液状化細胞診の普及状況と諸問題 ——アンケート調査から——	金沢医科大学臨床病理学 中田 聡子・他 (128)
〈症 例〉	
比較的高い細胞接着性をもつ diffuse large B-cell lymphoma の 1 例	社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院臨床検査部 鈴木 郁美・他 (135)
腹腔内転移で発見された唾液腺基底細胞腺癌の 1 例	聖隷三方原病院臨床検査部 大場加央里・他 (140)
淡明細胞型肝内胆管癌の 1 例	綾部市立病院医療技術部臨床検査科病理 山口 直則・他 (146)
乳頭癌様の異型細胞を認めた甲状腺腺腫様結節の 1 例	川崎医科大学附属川崎病院病理部 成富 真理・他 (153)
妊娠初期に LSIL であったにもかかわらず妊娠中期に進行子宮頸癌と診断した 1 例	武蔵野赤十字病院産婦人科 赤股 宜子・他 (158)
Small cell carcinoma of the ovary of the hypercalcemic type ——Intraoperative cytological findings of a case——	Department of Pathology, Osaka Red Cross Hospital Masayuki Shintaku, et al. (164)
〈短 報〉	
乳腺細胞診検体における CK5/14 + p63 + CK7/18 カクテル抗体による多重染色の基礎的検討	川崎医科大学附属病院病院病理部 米 亮祐・他 (170)

肺腺癌と扁平上皮癌の鑑別に有用な多重免疫染色法 .....	土浦協同病院病理診断部 池田 聡・他	(172)
尿路上皮癌との鑑別が困難であった前立腺導管腺癌の1例 .....	済生会熊本病院中央検査部病理 鮫島 彩香・他	(174)
子宮頸部絨毛腺管状粘液性腺癌の1例 .....	地方独立行政法人広島市立病院機構広島市立安佐市民病院病理診断科 柏原 倫子・他	(176)
投稿規定.....		(178)
編集委員会.....		(185)

\*—————

〈表紙写真〉

淡明細胞型肝内胆管癌

(左：パパニコロウ染色，右：H-E 染色) (山口直則・他，左：Photo. 4a, 147 頁，右：Photo. 7, 149 頁)

## CONTENTS

Editorial.....Miki Kushima

### Original Articles

- Cytological evaluation of thyroid cyst—Adequate or inadequate—  
Naoko Suzuki, et al. (Dept. of Cytol., Cancer Inst. Hosp., Tokyo) .....(103)
- Useful double immunostaining with p63 and CK14 in the differential diagnosis of IDP and  
DCIS in fine needle aspiration cytology of the breast  
Yoshiyasu Oana, et al. (Dept. of Path., St. Marianna Univ. Hosp., Kanagawa) .....(107)
- An analysis of Papanicolaou smear before treatment for adenocarcinoma *in situ* of the  
uterine cervix in 65 cases  
Eiji Kondo, et al. (Dept. of Gynecol., Cancer Inst. Hosp., Japanese Foundation of Cancer Research., Tokyo) .....(114)

### Investigation Reports

- Job stress in workers engaged in cytologic examination in Japan  
—A comparative study among cytotechnologists, pathological technicians, doctors, and the office workers—  
Emiko Suga, et al. (Dept. of Clin. Lab., Kawaguchi Municipal Med. Center, Saitama) .....(119)
- Prevalence of liquid based cytology in the Hokuriku district based on a questionnaire survey  
Satoko Nakada, et al. (Dept. of Path. and Lab. Med., Kanazawa Med. Univ., Ishikawa) .....(128)

### Clinical Articles

- Cytological diagnosis of a diffuse large B-cell lymphoma with cohesive growth pattern  
—A case report—  
Ikumi Suzuki, et al. (Dept. of Lab. Med., Yamagata Saisei Hosp., Yamagata) .....(135)
- A case of basal cell adenocarcinoma of the salivary gland revealed in the ascites cytology  
Kaori Ohba, et al. (Dept. of Clin. Lab., Seirei Mikatahara General Hosp., Shizuoka) .....(140)
- Cytologic findings of a clear cell intrahepatic cholangiocarcinoma—A case report—  
Tadanori Yamaguchi, et al. (Dept. of Cytopath., Ayabe City Hosp., Kyoto) .....(146)
- A case of an adenomatous nodule with papillary carcinoma-like atypia  
Mari Naritomi, et al. (Dept. of Path., Kawasaki Med. School Kawasaki Hosp., Okayama) .....(153)
- A case of advanced uterine cervical cancer in 2rd trimester that had LSIL in 1st trimester of pregnancy  
Nobuko Akamata, et al. (Dept. of Obst. and Gynecol., Musashino Red Cross Hosp., Tokyo) .....(158)
- Small cell carcinoma of the ovary of the hypercalcemic type  
—Intraoperative cytological findings of a case—  
Masayuki Shintaku, et al. (Dept. of Path., Osaka Red Cross Hosp., Osaka) .....(164)

### Brief Notes

- Optimization of multiple staining with a CK5/14 + p63 + CK7/18 cocktail antibody for  
breast cytology specimens  
Ryosuke Yone, et al. (Dept. of Path., Kawasaki Med. School Hosp., Okayama) .....(170)
- Dual color immunocytostaining for differential diagnosis between adenocarcinoma and  
squamous cell carcinoma  
Satoshi Ikeda, et al. (Dept. of Path., Tsuchiura Kyodo General Hosp., Ibaraki) .....(172)

A case of prostatic duct adenocarcinoma closely mimicking urothelial carcinoma in the voided urine cytology  
Ayaka Sameshima, et al. (Dept. of Path., Saiseikai Kumamoto Hosp., Kumamoto) .....(174)

A case of mucinous adenocarcinoma, villoglandular type of the uterine cervix  
Tomoko Kashihara, et al. (Dept. of Diag. Path., Local Incorporated Administrative Agency,  
Hiroshima City Hosp. Org., Hiroshima City Asa Hosp., Hiroshima) .....(176)

Notice to contributors.....(178)

**Cover Photo**

Clear cell intrahepatic cholangiocarcinoma  
(Left : Pap. stain, Right : H-E stain) (Tadanori Yamaguchi, et al., Left : Photo. 4a, p147, Right : Photo. 7, p149)



## 編 集 委 員 卷 頭 言

Miki Kushima

# 九 島 巳 樹

昭和大学江東豊洲病院臨床病理診断科

### ▶ 余寒の候，東京の海辺にて



地球温暖化を憂える声が盛んに上がるようになってしばらくたち、東京には冬がなくなるのではないかと勝手に想像していましたが、インフルエンザが流行し、冷たい雨が雪に変わると、やはり冬は確実にやってくるのですね。日本臨床細胞学会の会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。編集委員の仕事は多くの投稿論文に寄り添って、著者の方々が意図するところを十分に表現でき、さらに会員の皆様の元へ分かりやすくお届けできるように、多くの査読者の方々のお力添えを得て、そこに少しだけお手伝いをさせていただく事だと思います。

私は医学部に入学以来、卒業後も同じ大学に所属して、きれいな細胞や組織に感動しながら大好きな顕微鏡を覗き続けています。当時所属していた病理学教室は今よりずっと基礎医学寄りに位置付けられていたので、日本臨床細胞学会の名称にあるような臨床の経験が十分にできないと思うようになりました。そこで研究を続けながら産婦人科の臨床と細胞診が同時に学べる病院を探していた時に、地元の医師会で講演されていた厚生中央病院の石東嘉男先生に出会って指導していただいたのが、初めて本格的に細胞診に取り組むようになったきっかけでした。まもなく日本臨床細胞学会秋期大会のお手伝いをさせていただいた頃は示説の発表に大変緊張していた事をよく覚えています。その後、東京慈恵会医科大学、がん研究会病院では大塚から有明病院など多くの研究会で勉強させて頂き、細胞を観察する心を多くの先輩から教わってきたと思います。

日本臨床細胞学会雑誌に論文が掲載されるのは大変な名誉で、とても権威があり、その事は敷居が高いと感じる部分でもありましたが、あきらめずに挑戦し続け、いくつか論文が採用になった時はとても嬉しく感じました。当時の編集委員の先生方には大変お世話になり、また、お手数をお掛けしたのではないかと冷汗を掻いています。今でもその時の挑戦したい気持ちは大切に、常に初心を忘れることなく前進したいと思っています。

さて、この度の日本臨床細胞学会雑誌第54巻第2号には、3編の原著論文、6編の症例報告、4編の短報、2編の調査報告が掲載されています。原著論文は、鈴木奈緒子氏らの「甲状腺嚢胞の細胞診判定区分」、小穴良保氏らの「乳管内乳頭腫およびDCISの重積を伴う細胞集塊に対するCK14/p63カクテル抗体を用いた二重染色の有効性」、近藤英司氏らの「上皮内腺癌(AIS)65例の術前細胞診の検討」です。



鈴木奈緒子氏の論文は新しい細胞診結果報告様式で適正・不適正の判定について臨床的な対応まで考えた考察がされており、本誌の読者には非常に興味のあるものと思われます。小穴良保氏の論文は乳管内乳頭腫（IDP）と DCIS との鑑別に役立つカクテル抗体を用いた免疫染色法を示し、近い将来、実際に細胞診業務に応用が可能と考えられます。近藤英司氏の論文は AIS と組織診で確認された症例の術前の細胞標本を検討したもので、結果が分かっているにもかかわらず AIS と細胞診で分かるのは一部にすぎず、相変わらず AIS の診断はきびしいものだと再認識しました。また、AGC 判定が持続する場合には AIS を疑って臨床的に対応する指標になると示されています。

症例報告は、大場加央里氏らの唾液腺基底細胞腺癌、鈴木郁美氏らの diffuse large B-cell lymphoma、山口直則氏らの淡明細胞型肝内胆管癌、成富真理氏らの甲状腺腺腫様結節、赤股宜子氏らの進行子宮頸癌、新宅雅幸氏らの卵巣小細胞癌、全部で 6 編です。まれな症例だけでなく、比較的頻度が高い疾患でも細胞診断に関して出現細胞の特別な形態学的特徴や、細胞診断に役立つ特徴的な臨床像の報告は日常の細胞診断業務に直結する有意義なものだと思います。短報は 4 編で、柏原倫子氏らの子宮頸部絨毛腺管状粘液性腺癌、池田聡氏らの肺腺癌と扁平上皮癌の鑑別、鮫島彩香氏らの前立腺導管腺癌、米 亮祐氏らのカクテル抗体による多重染色の基礎的検討です。

最後に調査報告が 2 編あります。須賀恵美子氏らの細胞診従事者の職業性ストレス、および中田聡子氏らの北陸地方における液状化細胞診（LBC）の普及状況、です。どちらも現場ならではの視線で良くまとめられており大変参考になるものと思われます。

さて、私は産婦人科領域の病理学を通して細胞診を学びはじめましたが、本誌には産婦人科、呼吸器、口腔領域、消化器、甲状腺、乳腺、泌尿器など様々な分野の専門家が寄稿され、医学のすべての領域を含めた形態学的診断を担う大切な場を提供していると考えています。電子版になっても引き続き、多くの細胞診に興味のある方に執筆していただけるよう努力したいと思いますので、会員の皆様のより積極的な投稿をよろしくお願いいたします。

## 日本臨床細胞学会雑誌投稿規定

## 1. 投稿資格

原則として投稿者は共著者も含め日本臨床細胞学会会員に限る。

## 2. 掲載論文

- 1) 論文の種別は総説, 原著, 調査報告, 症例報告, 特集, 短報, 読者の声である。
- 2) 投稿論文は臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので, 他誌に発表されていないものに限る。
- 3) 論文作成に際しては, プライバシー保護の観点も含め, ヘルシンキ宣言 (ヒトにおける biomedical 研究に携わる医師のための勧告) ならびに臨床研究に関する倫理指針 (厚生労働省 (平成 15 年 7 月 30 日, 平成 16 年 12 月 28 日全部改正, 平成 20 年 7 月 31 日全部改正) が遵守されていること。

※これらの指針は, 学会誌 1 号に記載。

- 4) 論文の著作権は本学会に帰属し, 著者は当学会による電子公開を承諾するものとする。セルフ・アーカイブ (自身のホームページ, 所属機関のリポジトリなど) においては表題, 所属, 著者名, 内容抄録の公開は学会誌の発行の後に認められる。
- 5) 論文投稿に際し, 著者全員の利益相反自己申告書 (様式 2) を添付すること。なお, 書式は <http://www.jacc.or.jp/member.html> からダウンロードし用いる。この様式 2 の内容は論文末尾, 文献の直前の場所に記される。規定された利益相反状態がない場合は, 同部分に, 「筆者らは, 開示すべき利益相反状態はありません。」などの文言を入れる。

## 3. 投稿形式

- 1) 原則として“電子投稿”とする。
- 2) 電子投稿の際には, 以下のサイトからアクセスする。  
<https://www.editorialmanager.com/jjacc/>

## 4. 執筆要項

## 1) 文章と文体

- (1) 用語は和文または英文とする。
- (2) 平仮名, 常用漢字, 現代仮名づかいを用いる。ただし, 固有名詞や一般に用いられている学術用語はそ

の限りではない。英文での投稿原稿の場合も和文の場合に準ずる。

- (3) 度量衡単位は cm, mm,  $\mu\text{m}$ ,  $\text{cm}^2$ , ml, l, g, mg など CGS 単位を用いる。
- (4) 外国人名, 適当な和名のない薬品名, 器具および機械名, または疾患名, 学術的表現, 科学用語については原語を用いる。大文字は固有名詞およびドイツ語の名詞の頭文字に限る。
- (5) 医学用語は日本臨床細胞学会編集の「細胞診用語解説集」に準拠すること。また, その略語を用いても良いが, はじめに完全な用語を書き, 以下に略語を用いることを明らかにする。

## 2) 原稿の書き方

原稿はワープロを用い, A4 判縦に横書きし, 1 行 25 字で 20 行を 1 枚におさめる。上下左右に 30 mm 程度の余白をとり, 左揃えとする。文字は 12 ポイント相当以上を用いるのが望ましい。

## 3) 電子ファイル

以下の電子ファイル形式を推奨する。

Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (英文のみ), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

なお, 写真の解像度は, 雑誌掲載サイズで 300dpi 以上が目安である。

## 4) 総説・原著・調査報告・症例報告・短報論文の様式

## (1) 構成

タイトルページ, 内容抄録, 索引用語 (key words), 本文, 利益相反状態の開示, 英文抄録, 文献, 写真, 図, 表の順とする。原稿には通し頁番号をふる。タイトルページ (1 枚目) には, 当該論文における修正稿回数 (初回, 修正 1 など), 論文の種別 (原著, 症例報告, 短報など), 和文の表題 (50 字以内), 著者名, 所属のほか論文別刷請求先, 著作権の移譲と早期公開に対する同意を明記する。

2 枚目には内容抄録, 索引用語を記載する。本文は内容抄録とは別に始める。

## (2) 著者

著者名は直接研究に携わった者のみに限定する。著者数は以下のとおりとし, それ以外の関係者は本文末に謝辞として表記されたい。



原著：10名以内  
 調査報告：8名以内  
 症例報告：8名以内  
 短報：5名以内  
 総説：1名を原則とする

## (3) 内容抄録

短報を除いて500字以内にまとめ、以下のような小見出しをつける。

原著と調査報告：目的, 方法, 成績, 結論

症例報告：背景, 症例, 結論

総説と特集：論文の内容に応じて適宜設定

## (4) 索引用語

論文の内容を暗示する英語の単語 (Key words) を5語以内で表示する。原則として、第1語は対象、第2語は方法、第3語以下は内容を暗示する単語とする。

key words 例：

胆嚢穿刺吸引細胞診—胆嚢癌4例の細胞像と組織像—

Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology  
 肝細胞癌についての1考察

Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review  
 喀痰中に卵巣明細胞腺癌細胞が見出されたまれな1例

Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum,  
 Metastasis, Case report

## (5) 本文および枚数制限

## a. 原著・総説・調査報告

本文, 文献を含め10,000字以内 (A4判20頁) とする。

図・表 (写真を含まず) は, 10枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが, 必要最少限の枚数とする。

## b. 症例報告

本文, 文献を含め6,000字以内 (A4判12頁以内) とする。

図・表 (写真を含まず) は, 5枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが, 必要最少限の枚数とする。

## c. 短報

出来上がり2頁以内とする。

写真は2枚以内 (組み合わせは各々2枚以内),

図表は計1枚までとする。

写真2枚と図表1枚が入った場合の本文 (I. はじめに〜) と文献は1,500字程度 (A4判3頁)

を目安とする。

## (6) 英文抄録

本文とは別紙に、表題の英訳およびローマ字つづりの著者名、所属の英文名、および抄録内容を記す。著者名のあとに、以下の略号を用いてそれぞれの称号あるいは資格を付記する。

医師：M. D. M. D., M. I. A. C. M. D., F. I. A. C.

歯科医師：D. D. S. とし、それ以外の称号あるいは資格は医師と同様に付記する。

臨床検査技師：M. T., C. T., J. S. C., C. T., I. A. C., C. T., C. M. I. A. C., C. T., C. F. I. A. C.などを記載する。抄録内容は英語で200語以内 (ただし表題、著者名、所属名はのぞく) とし、以下のような小見出しをつけてまとめる。

原著と調査報告：Objective, Study Design, Results, Conclusion

症例報告：Background, Case (または Cases), Conclusion

総説：論文の内容に応じて適宜設定

短報：小見出しをつけずに100語以内にまとめる

## (7) 文献

## a. 主要のものに限る。

原著・特集・調査報告：30編以内

症例報告：15編以内

短報：5編以内

総説：特に編数の制限を定めない

## b. 引用順にならべ、本文中に肩付き番号を付す。

## c. 文献表記はバンクーバー・スタイルとし、誌名略記について和文文献は医学中央雑誌刊行会、英文文献はIndex Medicusに準ずる。参考として以下に例を記載する。

## 【雑誌の場合】

著者名 (和名はフルネームで、欧文名は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで6名まで表記し、6名をこえる場合はその後を“・ほか”, “et al”と略記する)。表題 (フルタイトルを記載)。雑誌名 発行年 (西暦): 巻: 頁-頁。

## 【単行本の場合】

著者名, 表題, 発行地: 発行所: 発行年 (西暦)。なお、引用が単行本の一部である場合には表題の次に編者名, 単行本の表題を記し, 発行年, 頁-頁。

他者の著作物の図表を論文中で使用する場合は, 原著者 (あるいは団体) より投稿論文を電子公開することを含めた許諾が必要で, これを証明



する書類を添付する。

#### (8) 図・表・写真

- a. 図, 表は英文で作成する。写真, 図, 表は Photo, 1, Fig. 1, Table 1 などのようにそれぞれの番号をつけ, 簡単な英文のタイトルと説明を付記する。
- b. 本文中には写真, 図, 表の挿入すべき位置を明示する。
- c. 顕微鏡写真には倍率を付する。顕微鏡写真(細胞像, 組織像)の倍率は撮影時の対物レンズ倍率を用いるが, 写真へのスケールの挿入が好ましい。顕微鏡写真については撮影時の倍率を表示するか, または写真にスケールを入れる。

#### 5) 特集論文の様式

一つのテーマのもとに数編の論文(原著ないし総説)から構成される。特集企画者は, 特集全体の表題(和文および英文)および特集の趣旨(前書きに相当)を1,200字以内にまとめる。原稿の体裁は原著・総説に準じる。

#### 6) 読者の声

以上の学術論文に該当しないもので, 本誌掲載論文に関する意見, 本学会の運営や活動に関する意見, 臨床細胞学に関する意見を掲載する。ただし, 他に発表されていないものに限る。投稿は以下の所定の書式・手順による。

- (1) 表題は和文50字以内とする。表題に相当する英文も添える。

改行して本文を記述する。

末尾に著者名(資格も付記), 所属施設名, 同住所の和文および英文を各々別行に記す。著者は1名を原則とする。文献は文末に含めることができるが, 表・写真・図を用いることはできない。これらの全てを1,000字以内(A4判2頁以内)にまとめる。

- (2) 掲載の可否は編集委員会にて決定する。なお, 投稿内容に関連して当事者ないし第三者の意見の併載が必要であると本委員会が認めた場合には, 本委員会より該当者に執筆を依頼し, 併列して編集することがある。

#### 7) 英文投稿の場合

A4 縦にダブルスペースで10頁以内とする。

和文抄録を付し, 図・表その他は和文の場合に準ずる。

### 5. 別 刷

別刷を希望するときは, 校正時に部数を明記して申し込む。

### 6. 論文の審査

投稿論文は編集委員会での審査により採否を決定し, その結果を筆頭著者に通知する。審査にあたっては査読制をとる。原稿の組体裁, 割付は編集委員会に一任する。

### 7. 校 正

著者校正は原則として初校において行う。出版社から送付された校正は, 必ず3日以内に返送する。校正担当者が筆頭著者以外の時は, 校正の責任者と送り先を投稿時に明記する。校正では間違いを訂正する程度とし, 原稿にない加筆や訂正は行えない。

### 8. 掲 載 料

出来上がり4頁までを無料とし, 超過頁の掲載料は著者負担とする。白黒写真製版代およびカラー写真印刷代は無料とするが, その他の図版費(図の製版代), 英文校正料, 別刷代は著者負担とする。また, 邦文論文の英文校正料と別刷代については半額免除とし, 英文論文の場合は図版費を含めて掲載料を免除する。

### 9. 本規定の改定

投稿規定は改定することがある。

(平成4年6月一部改定)	(平成22年9月一部改定)
(平成6年6月一部改定)	(平成23年3月一部改定)
(平成9年6月一部改定)	(平成23年8月一部改定)
(平成11年6月一部改定)	(平成24年4月一部改定)
(平成21年5月一部改定)	(平成26年5月一部改定)
(平成21年6月一部改定)	(平成26年11月一部改定)
(平成21年11月一部改定)	(平成26年12月一部改定)
(平成22年4月一部改定)	(平成27年3月一部改定)

#### 添付1 Acta Cytologica への投稿について

投稿規定は [www.karger.com/acy](http://www.karger.com/acy) に明記されていますのでこれに従って下さい。従来は国内での査読を行っていましたが, 直接投稿していただくことになりました。

添付2 以下の2項目は毎年の1号に掲載する。

- ・ヘルシンキ宣言
- ・臨床研究に関する倫理指針

平成15年7月30日

(平成16年12月28日全部改正)

(平成20年7月31日全部改正)

## NOTICE TO CONTRIBUTORS

### 1. Authorial responsibility :

All authors of this journal including coauthors must be members of the Japanese Society of Clinical Cytology.

### 2. Categories of articles published :

1) The categories of articles published in this journal are *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports*, *special articles*, *brief notes*, and *reader's voices*.

2) The submitted articles should contribute to the advancement of clinical cytology and must be submitted exclusively to this journal.

3) Authors must observe the Declaration of Helsinki (recommendations for physicians conducting biomedical studies in humans) and the Ethics Guidelines for Clinical Research (Ministry of Health, Labour and Welfare, July 30, 2003, Revised on December 28, 2004 and July 31, 2008), including privacy protection.

\* These guidelines appear in the first issue of the journal.

4) Copyright for articles published in this journal will be transferred to the Japanese Society of Clinical Cytology, and the authors must agree that the articles will be published electronically by the Society. The authors are permitted to post the title, affiliations, authors' names and the abstract of their article on a personal website or an institutional repository, after publication.

5) All authors will be required to complete a conflict of interest disclosure form as part of the initial manuscript submission process. The corresponding author is responsible for obtaining completed forms from all authors of the manuscript. The form can be downloaded from (<http://www.jssc.or.jp/member.html>) The statement has to be listed at the end of the text.

### 3. Submission style :

1) As a general rule, manuscripts should be submitted electronically.

2) For initial submission, please access the site below.  
(<https://www.editorialmanager.com/jjssc/>)

### 4. Instructions for manuscripts :

#### 1) Text and writing style

(1) Manuscript is to be written in Japanese or English.  
(2) Hiragana, daily use kanji and contemporary Japanese syllabic writing should be used, except for proper nouns and generally used technical terms. English manuscripts should be prepared essentially in the same manner as Japanese manuscripts.

(3) Weights and measures are expressed in CGS units (cm, mm,  $\mu\text{m}$ ,  $\text{cm}^2$ , ml, l, g, mg, etc.).

(4) Names of non-Japanese individuals, drugs, instruments / machines, or diseases that have no proper Japanese terms, academic expressions and scientific terms are to be written in the original language. Upper case letters should be used only for proper nouns and the first letter of German nouns.

(5) Medical terms should be in accordance with the "Saibou-shinn yougo kaisetsu-syu (Handbook of cytological terminology)" edited by the Japanese Society of Clinical Cytology. Abbreviations of medical terms may be used, but the terms should be spelled out in full at their first occurrence in the text and the use of abbreviations is to be mentioned.

#### 2) Manuscript preparation

Manuscripts are to be prepared using a word processor on vertical A4-size paper, with 25 characters per line and 20 lines per page. The top, bottom and side margins should be approximately 30 mm, and paragraphs left-justified. Twelve point or larger font size is preferable.

#### 3) Electronic files

The following electronic file formats are recommended. Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (English only), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

A minimum resolution of 300 dpi size is required for photographs for publication.

4) Style of *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports* and *brief notes*.

(1) Manuscript format

The parts of the manuscript are to be presented in the following order : Title page, abstract, key words, text, conflict of interest disclosure, English abstract, references, photographs, figures and tables. The pages of the manuscript should be numbered consecutively. The number of revisions (initial submission, first revision, etc.), the category of paper (*original article, case report, brief note, etc.*), Japanese title (not exceeding 50 characters), name (s) of author (s), authors' affiliations, address for reprint requests, and agreement of copyright transfer and early publication must be clearly written on the title page (the first page).

The abstract and key words are to be written on the second page. There should be a separation between the abstract and the start of the text.

## (2) Authors

Authors will be limited to persons directly involved in the research. The number of authors is to be as follows, and other persons involved should be mentioned in the *Acknowledgments* section at the end of the paper.

*Original articles* : no more than 10

*Investigation reports* : no more than 8

*Case reports* : no more than 8

*Brief notes* : no more than 5

*Review articles* : just one author, as a general rule

## (3) Abstract

The text of the abstract should not exceed 500 characters, except for *brief notes*, and the headings should be comprised of the following.

*Original articles* and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

*Case reports* : Background, Case (s), Conclusion

*Review articles* and *special articles* : headings are to be selected according to content.

## (4) Key words

No more than 5 key words indicative of the content of the paper are to be supplied. As a general rule, the first term usually indicates the subject, the second term, the method, the third term and beyond, the content.

[Titles followed by examples of appropriate key words in parentheses]

Examples of Key words :

– Gallbladder aspiration cytology — Cytological and histological findings in four cases of gallbladder cancer — (Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology)

– A review of hepatocellular carcinoma (Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review)

– A rare case of ovarian clear cell adenocarcinoma cells detected in sputum (Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum, Metastasis, Case report)

## (5) Text and page limitations

### a. *Original articles, review articles, and investigation reports* :

The manuscript should not exceed 10,000 characters (20 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 10 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

### b. *Case reports* :

The manuscript should not exceed 6,000 characters (12 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 5 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

### c. *Brief notes* :

A brief note should not exceed two printed pages.

No more than two photographs (or combinations of no more than two photographs) and one figure or table can be included.

If two pictures and one figure or table are included, text (I. Introduction ...) and references should be approximately 1,500 characters (3 pages of A4 size).

## (6) English abstract

An English translation of the title, authors' names in Roman letters, authors' affiliations in English, and English abstract should be given on a page separate from the text. The authors' degrees/qualifications are to be written after their names using the following abbreviations.

For physicians : MD ; MD, MIAC ; MD, FIAC.

For dentists : DDS, with other degrees or qualifications abbreviated the same as for physicians.

For clinical laboratory technologists : MT ; CT ; JSC ; CT, IAC ; CT, CMIAC ; CT, CFIAC.

The text of the abstract should not exceed 200 words (exclusive of the title, authors' names and affiliations), and the following headings are to be used.

*Original articles* and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

*Case reports* : Background, Case (s), Conclusion

Review articles : headings should be selected according to their content.

*Brief notes* : abstracts for brief notes should consist of no more than 100 words and no headings are to be used.

#### (7) References

- a. Only major references are to be listed.

*Original articles, special articles, and investigation reports* : no more than 30 titles

*Case reports* : no more than 15 titles

*Brief notes* : no more than 5 titles

*Review articles* : no limit

- b. References are to be listed in the order in which they appear in the text, and indicated by superscript numbers in the text.

- c. The references should be listed in the Vancouver style, and the journal abbreviations in Japanese and English references according to the Japan Medical Abstracts Society and Index Medicus, respectively. Examples are shown below.

For journals :

Name (s) of the author (s) (full names for Japanese names ; for European names, surnames of the first 6 authors spelled out, with initials for the rest of the name, and other authors' names abbreviated "*et al*"). Title (full title should be given) . Name of the journal (space) Year of publication ; Volume : Page numbers.

For books :

Name (s) of the author (s). Title. Place of publication : Name of the publisher ; Year of

publication (If a citation is just one part of an independent book, the title should be followed by the name of the editor, the title of the book, and the year of publication). Page numbers.

If figures and tables from another author's work are used in the article, permission for publication, including electronic publication, must be obtained from the original author (or organization), and the documents certifying this permission must be attached.

#### (8) Figures, tables and photographs

- a. Figure and table titles are to be written in English. Photographs, figures and tables are to be numbered thus : Photo. 1, Fig. 1, Table 1, etc. Provide simple titles and explanations in English.

- b. Clearly state where the photographs, figures and tables should be positioned in the text.

- c. Magnifications are to be stated for micrographs. The magnification of the objective lens at the time the photograph was taken will be used as the magnification for photomicrographs (photographs of cells or tissues). Authors are recommended to use scale bars in the photograph. For electron micrographs, the magnification at which the photograph was taken should be stated or scales included in the photograph.

#### 5) Style of *special articles*

*Special articles* are composed of several papers (*original articles* or *reviews*) on a single topic. The planners of *special articles* need to prepare the title of the whole special issue (in Japanese and English) and a synopsis (equivalent to an introduction) of no more than 1,200 characters. The style of *special articles* should be the same as for *original articles* and *review articles*.

#### 6) *Reader's voices*

Submissions which do not fit the above-described categories for scientific papers, including opinions on papers already published in the journal, the operation and activities of the Japanese Society and Clinical Cytology, are also published, but only if they have not been presented elsewhere. Submissions should be in accordance with the following prescribed form and procedure.

- (1) The title is not to exceed 50 characters, and a corre-

sponding English title should be provided.

The text should be started on a new line.

At the end of the text, the name (s) of author (s) (with the authors' qualifications), institutional affiliations and addresses should be written in Japanese and English on separate lines. As a general rule, there should be just one author. References can be added at the end, but no tables, pictures and figures. All of the above should be no more than 1,000 characters (no more than 2 pages of A4 size).

- (2) The editorial board will decide whether a submission will be published. If the Committee finds it necessary to also publish the opinion of a person referred to in the manuscript or a third party in regard to the content of the paper submitted, the Committee will request that the person concerned write it, and the two will be published together.

#### 7) English manuscripts

English manuscripts are to be written double-spaced on A4 paper, and should not exceed 10 pages.

A Japanese abstract should be provided, and figures, tables, etc. are to be prepared in the same manner as the Japanese manuscript.

#### 5. Reprints :

When reprints are desired, the author should state the number of copies to be ordered when returning the first galley proof.

#### 6. Review of the manuscript :

Whether a manuscript submitted for publication will be accepted is determined by a review conducted by the editorial board, and the first author will be notified of the results. The referee system is used to conduct these reviews. The editorial board will be responsible for the layout and format used in printing the manuscript.

#### 7. Proofreading :

The publisher will send the first galley proof to the first author, who should check and return it within three days. When the person responsible for proofreading is someone other than the first author, the person's name and address must be clearly stated when the manuscript is submitted.

Only errors can be corrected on proofs. Nothing that is not already in the manuscript can be added or corrected.

#### 8. Publishing fee :

Authors will be charged for space in excess of 4 printed pages. There will be no charge for the cost of printing black-and-white and color photographs. However, authors will be charged for plate making for figures other than photographs, English proofreading and reprints. In addition, half the charges for English proofreading and reprints of Japanese articles will be waived, and the publishing fees, including plate making charges, for English articles will be waived.

#### 9. Revision of these rules :

The rules for submitting manuscripts may change.

- (Partial revision June 1992)
- (Partial revision June 1994)
- (Partial revision June 1997)
- (Partial revision June 1999)
- (Partial revision June 2009)
- (Partial revision November 2009)
- (Partial revision April 2010)
- (Partial revision September 2010)
- (Partial revision March 2011)
- (Partial revision April 2012)
- (Partial revision May 2014)
- (Partial revision November 2014)
- (Partial revision December 2014)
- (Partial revision March 2015)

#### Appendix 1. Submission of manuscripts to *Acta Cytologica*

Please go the new *Acta Cytologica* website ([www.karger.com/acy](http://www.karger.com/acy)) and read guidelines for manuscript submission. Submission of manuscripts to the Japanese Editorial Office for preparatory review has been abolished.

#### Appendix 2. The following 2 items will appear in the first issue of every year.

- Declaration of Helsinki
- Ethics Guidelines for Clinical Research  
July 30, 2003  
(Revised on December 28, 2004)  
(Revised on July 31, 2008)

## 日本臨床細胞学会編集委員会 (平成25年~27年)

委員長: 竹島信宏  
 担当理事: 河原 栄  
 委員: 岡田真也  
         富永英一郎  
         室谷哲弥  
 査読委員: 秋葉 純  
             伊藤 仁  
             加来恒壽  
             喜多恒和  
             黒住昌史  
             佐藤之俊  
             杉山裕子  
             楯 真一  
             田丸淳一  
             中村直哉  
             服部 学  
             藤井多久磨  
             丸田淳子  
             森下由紀雄  
             吉見直己  
         是松元子  
         岡本三四郎  
         福永真治  
         矢納研二  
         池田純一郎  
         今村好章  
         片岡史夫  
         北村隆司  
         小松京子  
         柴 光年  
         鈴木雅子  
         田中浩彦  
         辻村 亨  
         中山富雄  
         濱田哲夫  
         藤原 潔  
         三浦弘之  
         森園英智  
         米山剛一  
         根本則道  
         河内茂人  
         古田則行  
         板持広明  
         伊豫田明  
         加藤良平  
         清川貴子  
         近藤英司  
         清水恵子  
         鈴木正人  
         田中尚武  
         土屋真一  
         長尾俊孝  
         林 透  
         細根 勝  
         三橋 暁  
         森谷卓也  
         若狭研一  
         九島巳樹  
         星 利良  
         一迫 玲  
         岩成 治  
         亀山香織  
         金城 満  
         齋藤俊章  
         清水道生  
         関根浄治  
         田中良太  
         土岐尚之  
         則松良明  
         広岡保明  
         前田一郎  
         光谷俊幸  
         安田政実  
         若狭朋子  
         清水 健  
         的田真紀  
         伊藤以知郎  
         岡部英俊  
         河合俊明  
         九島巳樹  
         笹川寿之  
         白石泰三  
         高澤 豊  
         谷山清己  
         内藤善哉  
         羽賀博典  
         廣川満良  
         増田しのぶ  
         南口早智子  
         山口 倫  
         鷲谷清忠  
         寺井義人  
         三上芳喜  
         伊東英樹  
         小野瀬亮  
         河原明彦  
         工藤浩史  
         笹島ゆう子  
         新宅雅幸  
         高橋健太郎  
         田畑 務  
         中泉明彦  
         畠山重春  
         廣島健三  
         松元 隆  
         元井紀子  
         横山良仁  
         渡辺 純

(50音順)



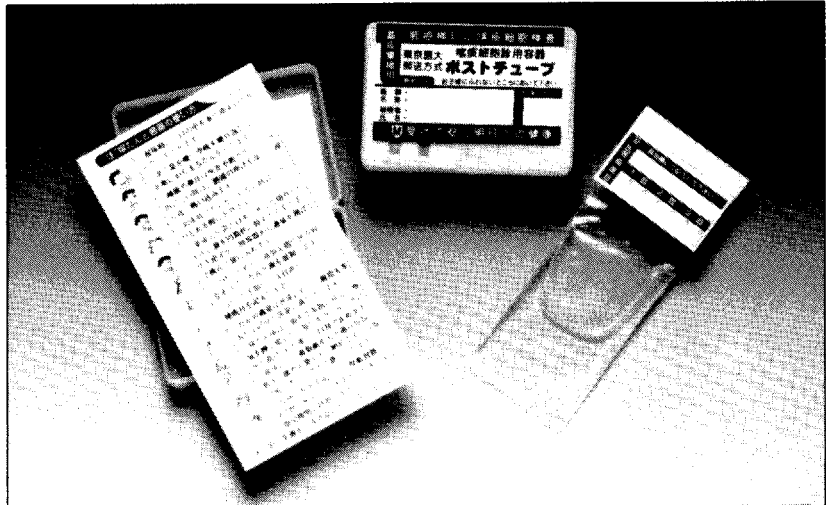
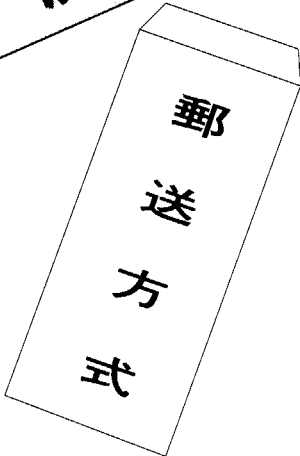
# 肺がん予防・早期発見のために たんのげんさ 喀痰細胞診のすすめ



左側：長期間喫煙者の肺



右側：非喫煙者の肺



## 【特長】

- 1 簡便な「ポスト投函」による郵送で、高い受診回収率が期待できます。
- 2 携帯便利な「ボックス型」で、「何時」でも「何処」でも「採痰」が可能です。
- 3 採痰後、「迅速かつ効率的」な「直接塗抹法」で高い処理能力を有し、検診に適しています。
- 4 保存液は、「細胞の形態保存」「染色性」に十分な配慮がされています。
- 5 検鏡下で、「生痰と同様な所見」が得られ、検索が容易です。
- 6 蓄痰法で、特に肺門部癌の「陽性率80%」以上の検出率です。

本品は、東京医科大学早田 義博名誉教授、加藤 治文名誉教授のご指導で作製しました。50%エタノール、2%カーボックス、0.5%チモール、生食水を保存液とした「郵送方式を特長」とし、肺がんの早期発見を目的とした喀痰細胞診専用容器です。

※容器発注及び受検方法などの詳細は、  
下記へお問い合わせ下さい。

製造発売元



メディカルケアセンター

〒340-0017 埼玉県草加市吉町5丁目11番8号 ☎048-927-3628

推薦 東京医科大学外科学教室